

平成 22 年度 第 1 回うらやす市民大学運営委員会 議事要旨

日 時：平成 22 年 4 月 15 日（木）午前 9 時～11 時 30 分

場 所：うらやす市民大学 受講室

1. 新年度の運営委員会構成について

市の人事異動に伴う新規委員の紹介等を行った。

①中山高樹公室長（前総務部長） ②織戸久夫生涯学習部長（前市民経済部長）

③伊藤敏一学長補佐（前理事）の就任

④本年度の運営委員の構成・委員数

学長 1 名 副学長 3 名 行政 3 名 市民委員 5 名 合計 12 名体制

出欠状況

・出席 12 名 欠席 1 名（高橋委員）

その他：事務局 市 3 名 市民事務局サポーター 2 名 コンサル 5 名

2. 学長あいさつ（要旨）

①長い準備期間を経て、昨年 10 月にうらやす市民大学は、多数の方々の支援を得てスタート。本年度も人材開発、社会貢献、新しい生涯学習の場を形成、長く地道に足元を固めて行き、開校精神を重んじて学校運営に携わって行き、益々充実させ対外的にも情報を発信したい。

②パートナーシップ（市民委員、サポーター）で、市民の市民による市民が育てる大学にし、世界にも通用できる大学にしたい。

3. 議 事

（1）平成 22 年度前期授業科目の応募状況及び選考方針について

全体的な傾向

①入学希望者は 269 名で前期に比べ 95 名増加。増加率 53%

②在校生 145 名 継続率 83%で極めて高い 延べ人数は 479 名（前期 270 名）で 77%増

- ③ 授業科目別の申込状況は、延べ人数 479 名で第一希望 269 名、第二希望 141 名、第三 46 名、第四 15 名、第五 7 名、第六 1 名
- ④ 新規に誕生した授業科目は、全般的に申込み者が多かった。
特に、「超・経済学」、「園芸」の 2 授業科目。

受講生の選考方針

- ①15 授業科目の中で、7 科目が定員オーバー
- ②コーディネーターの教授に「どの程度まで授業に差し障りなく定員を増やせるか」の検討を依頼した。【授業形態から見て最大増加できる定員数（案）】
- ③「歴史未来学」と「超・経済学」の 2 科目が抽選による選考方式で選ぶことになった。（詳細は別紙参照）
「歴史未来学」60 名
「超・経済学」5 名増加の 35 名（授業は 7 グループに分け、5 名でのグループワークを実施するため）
- ④269 名の第一希望者は全員入学できるように方向で選考して行く
その中で **1 科目のみの受講者は最優先とする**
- ⑤この結果、「歴史未来学」「超・経済学」は抽選とすることとした。

授業形態・定員数に関する主な意見

- ①双方向授業の精神から言えば、1 クラス 60 名は多過ぎる。如何にも多過ぎるし、授業の成果に疑問が残る
- ②座学主体の基礎知識習得講座「歴史」「健康」「園芸」は多数の方々が参加できるようにした。基礎知識を修得して（歴史、園芸等の座学主体科目受講生）次のステップアップしていく学生も見られるので
- ③1 クラス 40 名でも、双方向授業は難しい。1 クラス 50～60 名では受講生同志の顔が解らず、授業内容も満足できず、多過ぎる
- ④市民の支持がないと成立しない、数は大事である 当初より定員が増えても、コーディネーターの先生が了解ならば、その判断を尊重したい
- ⑤放送大学の受講生の満足度合は、人数に関係なくディスカッションを重視しており、社会人としては、やり取りできる科目、参画できることを重視し、喜びを感じている。キャッチボールが重要、60 名でキャッチボールができるか？
- ⑥シラバスを作る段階で、どのような授業形態にするかで定員は決まる
- ⑦グループワーク、フィールド形式授業は、顔と名前が見える

⑧「歴史未来学」について言えば、継続受講者も多く、運営委員会としてはもっと見識を持って対応すべきである

⑨授業科目の応募者の数は、定員オーバー、定員未満等バライティに富んでいるので、開学の主旨も守られるでしょう。定員は講座担当者（コーディネーター）の意向を重視していく 35名定員の双方向授業は可能である

⑩まだ第2期目なので、市民に学校を出来るだけ良く知って貰いたいし、応募者の多い科目は抽選だが、できるだけ希望者を入学させたい

(学長より)

講師には授業に当っては、双方向授業を推進する為に、必ず20分～30分の質疑応答の時間を設ける様にする事を確認すること。通知と授業の度に文書で確認すること

抽選方法について

(1) 事務局より、定員を超えている人数の多い科目から、優先順に抽選を実施したいという提案があった

①第1希望者で当該科目以外申込みが無い者（最優先者）

②第2希望者で第1希望科目に落選した者

③以下、(1)、(2)を除いた希望順位ごと

抽選対象科目

「歴史未来学」第1希望者 48名 抽選者は第2希望者18名で落選6名

「超・経済学」第1希望者 43名の内、①の対象者が13名（最優先入学者）あり、抽選者は第1希望者30名で8名落選

(2) 学長

①100%ミスのないようにすること 公平性を確保すること

②抽選の対象となる人をしっかりと書くこと

抽選対象者：「歴史未来学」抽選者は第2希望者18名で落選6名

「超・経済学」第1希望者 43名の内、第1希望者で当該科目以外申込みが無い者の対象者が13名あり、抽選者は第1希望者30名で8名落選

(3) 入学優先順位

①第1希望者で1科目しか受講しない人（最優先者）

②申込が2以上で第1希望者

落選者及び希望科目を落とされた者の対策（定員を満たさない科目対策）

- ①受講生全体の満足度を上げるため、定員の定数に余裕がある科目は、落選者や希望科目を落とされた者に対して、定員を満たさない科目を希望した場合、入学を認めることとする。
- ②希望の有無を入学通知と一緒に郵送し募集を行う 希望学生に対して明確に申込期限を告知すること。（メ切り日を決めて）
- ③公開基準や募集方法について、事務局に一任する
- ④事務局は、5月15日の入学式に向け、4月末日までに入学案内、授業料の納付通知など業務を行う

（2）平成22年度前期運営スケジュール及び今後のカリキュラム作成について

事務局より4月～9月を中心とした運営スケジュールを説明。

さらに、本年後期（10月～）からのシラバス編成の方向性に関して検討した。

（1）授業期間の通年制導入検討の提案

- ①受講生募集期間は年1回 期間；10月～翌年9月
- ②授業期間：10月～翌年6月の9ヶ月間
7月～9月の間で学習報告会（成果の発表）、次期募集の準備・実施期間
但し、**今年度は準備のため11月から6月までの8ヶ月間程度**
- ③授業回数は授業科目の内容で、10回～20回程度
- ④授業の開始時期は、原則として10月及び3月とする

（2）導入の理由

学生交流をより深める、講師依頼サイクル、他市の状況など

（検討結果）

※前後期制⇒通年制への移行は、大変重要案件であるため、さらに検討したうえで、当委員会としての方向性を出すこととする。

ただし、すぐには通年制に移行できない（検討期間が少ない）ので、本年後期はこれまでどおりの運営とする。

今後のシラバス編成にあたっては、より学生意見を反映したものとしていくために、学生主体の（仮称）シラバス委員会を早期に設置することとした。

(3) カリキュラム委員会の設置に関する枠組みについて

①位置づけ

うらやす市民大学運営委員会の下部組織として、少人数で、先生（副学長）、運営委員会委員、学生（在校生）、行政職員の参加で、双方向で議論・検討による授業科目のシラバス（案）創りの作業チームとして位置付ける。

②主たる業務

市民の市民による市民が育てるうらやす市民大学に相応しい授業科目のシラバス（案）づくりの検討及び作成

③運営に当って

①ワーキンググループは、事前にある程度自己の案を持って参加する

②特に、学生は自主的に時間を作って企画案を用意の上、参加して、双方向で作っていく（学生の自主組織として）

③運営委員会とは別に時間を設定、十二分に時間を掛けて検討する

④カリキュラム委員会で検討された原案を運営委員会で最終的に検討・決定する

⑤具体的なカリキュラム委員会の実施計画は事務局で原案を作成

⑥設置・検討期間：平成 22 年 6 月～10 月（目途）

④在校生（ワーキンググループ）の募集方法

申込結果書類に「カリキュラム検討委員募集の実施要領」を同封し、告知する
人数は 3 名程度

⑤第一回カリキュラム委員会を開催する。それまでにメンバー等を決めておく

第 1 回開催日時

平成 22 年 6 月 1 日（火）、第 2 回運営委員会 午後 3 時～（予定）

運営委員会とカリキュラム委員 午後 5 時～（予定）

との合同懇談会

(4) 平成 22 年後期カリキュラム編成について

平成 22 年度後期運営については、下記のとおりの方角性とした。

①授業期間：平成 22 年 10 月～23 年 3 月

②主たる課題のカリキュラムの検討についてはシラバスは 6 月中旬締切り、時間的な制約からカリキュラムの内容は、今期のマイナーチェンジとし、大幅な変更はしない。

③広報活動：広報うらやす、ポスター・チラシの作成、配布

募集案内の作成及び関係施設に配布・設置

学校説明会の時期及び内容の決定 他

以上、詳細は「平成 22 年度後期運営スケジュール（案）」参照

(5) 第2期市民プレゼンツ講座(案)について

第二期市民プレゼンツ講座(案)について、別紙 資料3を基に説明あり、原案通り実施の方向性で具体化することになった。

説明内容

(1) 第1期実施結果

実施時期、参加人数、授業内容、講座から発展した動き及び講座のあり方

(2) 第2期プレゼンツ講座(案)

(2) - 1 スケジュール

①講座期間 7月～9月(10回)

②受講生は市民大学学生で、6月に生徒の募集

③テーマ(主題)は、4月中に決めたい 例えは: うらやすの楽しみは何か?

④市民大学の学生を対象に、講師を公募する。人数は4～5名(多数は抽選)

尚、第1期の実績結果を踏まえて、継続性を重視して、第一期のプレゼンツ講座内容のレベルアップを図り、同じ時期に第1期の4人の講師で行う

(2) - 2 狙い

①趣旨は講師の育成、このような講義内容の講座が欲しい
(アンテナショップ講義)

②講師1人で10回連続の講座は趣旨に合致しない

③大学講義からの脱却を図る。知識の伝達でない、双方向型・討議・意見交換の講義で、協働の輪を広げて行く

*学長からのコメント

平成23年度の授業科目の中に市民プレゼンツ講座を導入する方向で考えたい。市民大学の理念でもあり、5年を目途に、浦安市の市民講師を他市の市民大学へ派遣できるような能力をつけたい

連絡事項 サポート団体との協働運営について

CCU 応援隊(現メンバー 20名)に関する活動実績の説明

- ① 市に協働推進課が4月に誕生、これを契機に市民大学、CCU 応援隊、協働推進課の3者で段階的な協働を進める
- ② パートナーシップ協定で、有償ボランティアとして責任を持って業務を遂行させたい
- ③ 次回の運営会議に、市民大学の運営で、CCU 応援隊の役割・分担の具体的な業務内容等を報告する
- ④ 今後、市民大学の卒業生や在校生の団体ができる事が予想される。CCU 応援隊との関係も含めて対応は考えて行きたい。